

■ インテリアデザイン学科

1 年次

		科目名	開講期	
			前期	後期
専門科目	必修科目	設計製図Ⅰ	○	○
		建築製図Ⅰ	○	○
		デザイン基礎実習	○	○
		インテリア概論	○	○
		CAD基礎実習		○
	選択科目	テクニカルⅠ	○	
		テクニカルⅡ	○	
	基幹科目	建築計画Ⅰ	○	
		建築計画Ⅱ		○
建築史Ⅰ		○		
建築史Ⅱ			○	
建築法規Ⅰ		○		
建築法規Ⅱ			○	
建築一般構造Ⅰ		○		
建築一般構造Ⅱ			○	
構造力学Ⅰ		○		
構造力学Ⅱ			○	
情報処理論		○		
建築施工法Ⅰ			○	
特別	キャリアデザインⅠ	○	○	

2 年次

		科目名	開講期	
			前期	後期
専門科目	必修科目	設計製図Ⅱ	○	○
		建築製図Ⅱ	○	○
		スペースデザイン a	○	○
		スペースデザイン b	○	○
		卒業制作		○
		CAD応用実習	○	○
		インテリア特論	○	
基幹科目	建築環境工学	○		
	建築設備		○	
	建築材料学Ⅰ	○		
	建築材料学Ⅱ		○	
	建築施工法Ⅱ	○		
	建築積算		○	
特別	キャリアデザインⅡ	○	○	

科目名： 設計製図Ⅰ

【実習】

英文名： Architectural Plan, Design and Drawing Ⅰ

担当者： 大西崇之、谷口恋

本科目は、建築意匠への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各課程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく課程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。

- 第 1 回：基礎トレーニングその1…プレゼンテーショントレーニング「ひとに伝えたい、こだわりのモノ」
- 第 2 回：基礎トレーニングその1…プレゼンテーショントレーニング「ひとに伝えたい、こだわりのモノ」発表会
- 第 3 回：第1課題「自分自身のための空間」…課題説明
- 第 4 回：第1課題「自分自身のための空間」…原体験空間の抽出、個別面談
- 第 5 回：第1課題「自分自身のための空間」…理想空間の抽出、個別面談
- 第 6 回：第1課題「自分自身のための空間」…空間イメージの構想、発表会
- 第 7 回：第1課題「自分自身のための空間」…空間イメージの図面化、発表会
- 第 8 回：第1課題「自分自身のための空間」…空間イメージの模型化
- 第 9 回：第1課題「自分自身のための空間」…最終模型の作製その1
- 第 10 回：第1課題「自分自身のための空間」…最終模型の作製その2
- 第 11 回：第1課題「自分自身のための空間」…最終模型の作製その3
- 第 12 回：第1課題「自分自身のための空間」…プレゼンテーション図面の作成
- 第 13 回：第1課題「自分自身のための空間」…プレゼンテーション図面の作成
- 第 14 回：第1課題「自分自身のための空間」…発表会、講評
- 第 15 回：第1課題「自分自身のための空間」…振り返りレポート作成
- 第 16 回：第2課題（夏季課題）「身近なまちの空間リサーチ」…課題説明
- 第 17 回：第3課題「すまいの設計」…課題発表、現地調査
- 第 18 回：第3課題「すまいの設計」…課題発表、現地調査の図面化、周辺環境の分析
- 第 19 回：第3課題「すまいの設計」…住人の具体化（ペルソナを設定する）、プログラム立案
- 第 20 回：第3課題「すまいの設計」…プログラムのエスキス作業
- 第 21 回：第3課題「すまいの設計」…プログラムを考えながら空間模型で生活活動を検討（1回目）
- 第 22 回：第3課題「すまいの設計」…プログラムを考えながら空間模型で生活活動を検討（2回目）
- 第 23 回：第3課題「すまいの設計」…プログラムと空間模型による中間発表
- 第 24 回：第3課題「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（平面図）1回目
- 第 25 回：第3課題「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（平面図）2回目
- 第 26 回：第3課題「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（断面図）1回目
- 第 27 回：第3課題「すまいの設計」…所要室の整理と空間構成（断面図）2回目
- 第 28 回：第3課題「すまいの設計」…最終まとめ
- 第 29 回：第3課題「すまいの設計」…完成模型作製（1回目）
- 第 30 回：第3課題「すまいの設計」…完成模型作製（2回目）
- 第 31 回：第3課題「すまいの設計」…プレゼンテーション作業（コンセプト、プレゼンテーション図面等作成、レイアウト）
- 第 32 回：第3課題「すまいの設計」…プレゼンテーション発表会、講評

■教科書

カタチから考える住宅発想法（彰国社）、図解 すまいの寸法・計画辞典 第二版（彰国社）

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築実務等に必要となる建築設計、企画、提案能力を身につけます。

■試験方法

試験は行わない。

■成績評価基準

提出された作品の、クオリティ、設定条件の遵守度、発表の出来、受講姿勢を総合的に評価する。

■受講生へのメッセージ

設計製図Ⅰは学生一人一人の個性と創造力を思い切り伸ばすとともに、進路を模索する時間でもある。あらゆる既存概念を一端捨てて、原点からの発想、構築、表現に挑戦すること。“正解”はあなたの中にもみえる。

科目名： 建築製図Ⅰ

【実習】

英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill Ⅰ

担当者： 原田総一郎、木下太

本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、製図規則の理解からスタートし、平屋建て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、木造2階建住宅及びRC造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力なども同時に養成する。

第1回：第1ターム「製図の基本規則①」…ガイダンス、製図道具の使い方、線と文字の意味理解と習熟 その1

第2回：第1ターム「製図の基本規則②」…線と文字の意味理解と習熟 その2

第3回：第1ターム「製図の基本規則③」…立体と空間の理解と習熟

第4回：第2ターム「各種建築記号の理解」…建築物と各図との関連理解 その1

第5回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解①」…建築物と各図との関連理解 その2

第6回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解②」…建築物と各図との関連理解 その3

第7回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解③」…建築物と各図との関連理解 その4

第8回：第2ターム「平面図・立面図・断面図の理解④」…建築物と各図との関連理解 その5

第9回：第3ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 計画・設計 その1

第10回：第3ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 一般図の作図 その1

第11回：第3ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 一般図の作図 その2

第12回：前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」

第13回：前期製図試験 その1（前期復習課題）

第14回：前期製図試験 その2（前期復習課題）

第15回：夏期ターム「木造住宅、RC造住宅 ①」…構造の異なる住宅の設計 構造と設計の理解

第16回：夏期ターム「木造住宅、RC造住宅 ②」…構造の異なる住宅の製図 構造と製図規則の理解

第17回：課題提出、前期講評

第18回：第4ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 平面詳細図 その1

第19回：第4ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 平面詳細図 その2

第20回：第4ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 矩計の理解

第21回：第4ターム「建築設計製図課題④」…木造平屋建住宅 矩計と各伏図の関係

第22回：第4ターム「建築設計製図課題⑤」…木造平屋建住宅 構造図と矩計図

第23回：第5ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 展開図 その1

第24回：第5ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 展開図 その2

第25回：第6ターム「建築設計製図課題①」…木造2階建住宅 一般図の作図 その1

第26回：第6ターム「建築設計製図課題②」…木造2階建住宅 一般図の作図 その2

第27回：第6ターム「建築設計製図課題③」…木造2階建住宅 構造図と矩計図

第28回：冬期ターム「建築設計製図課題①」…木造平屋建住宅 構造図（床伏図） その1

第29回：冬期ターム「建築設計製図課題②」…木造平屋建住宅 構造図（軸組図） その2

第30回：冬期ターム「建築設計製図課題③」…木造平屋建住宅 構造図（軸組模型） その3

第31回：冬期課題提出・学年末製図試験「傾向と対策」

第32回：学年末製図試験（与条件の読み取りから作図まで総合課題）、春季休暇課題説明

■教科書

建築製図 基本の基本（学芸出版）

■参考文献

建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）

■到達目標

木造建築物の設計・製図能力を身につける。

■試験方法

定期試験（実技）を行う。

■成績評価基準

定期製図試験60%、通常課題（夏・冬課題含）25%、平常点（受講姿勢等）15%を原則とする。

■受講生へのメッセージ

- ・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。
- ・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。

科目名： デザイン基礎実習

【実習】

英文名： Basics of Design

担当者： 大西崇之

本科目は、インテリアデザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

インテリアデザインを学ぶということは、建築に関する知識やプロダクトデザインに関する知識など、幅広く学ぶ必要があります。この授業は知識の習得だけを目的とせず、それらに関連する演習課題等を通じ、インテリアに関する基礎的な知識の定着と、さらにそれらを深めることで、自身の力でデザインができる基礎的な力の養成を目的としています。また、インテリア業界を知るキャリアデザイン教育も兼ねた授業です。

第 1 回： ガイダンス・インテリアの仕事とは？ 課題：身の回りにある、良いデザインを1つ持ってくる

第 2 回： そもそもデザインってなに？ 課題：ハコリョーシカをつくる

第 3 回： インテリアデザインとは？ 課題：箱を使って空間を観察する①

第 4 回： インテリアデザインとは？ 課題：箱を使って空間を観察する③

第 5 回： インテリアデザインとは？ 課題：箱を使って空間を観察する②

第 6 回： 空間を構成し観察する 課題：観察スケッチ

第 7 回： モノや空間を観察する 課題：短時間スライドスケッチ

第 8 回： 学外見学（インテリアショップ等）

第 9 回： インテリアに関連する設備とは？ 課題：生活行為を考えたインテリア設備のプロット

第 10 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ①

第 11 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ②

第 12 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ③

第 13 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ④

第 14 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ⑤

第 15 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ⑥

第 16 回： 人間工学について考える 課題：すわるカタチ⑦

第 17 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）①

第 18 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）②

第 19 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）③

第 20 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）④

第 21 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）⑤

第 22 回： 小さな公共空間について考える 課題：ピクニック空間に提案（グループ課題）⑥

第 23 回： 住空間リノベーションを考える 課題：住空間リノベーション課題

第 24 回： 住空間リノベーションを考える 課題：住空間リノベーション課題②

第 25 回： 住空間リノベーションを考える 課題：住空間リノベーション課題③

第 26 回： 住空間リノベーションを考える 課題：住空間リノベーション課題④

第 27 回： 住空間リノベーションを考える 課題：住空間リノベーション課題⑤

第 28 回： 生活の中の「あかり」について考える 課題：「あかり」をつくる（眠るためのあかり）①

第 29 回： 生活の中の「あかり」について考える 課題：「あかり」をつくる（眠るためのあかり）②

第 30 回： 生活の中の「あかり」について考える 課題：「あかり」をつくる（眠るためのあかり）③

第 31 回： 生活の中の「あかり」について考える 課題：「あかり」をつくる（眠るためのあかり）④

第 32 回： 全体振り返り、まとめ

■教科書

課題プリント及び参考資料、スライド及びビデオ等

■参考文献

課題内容に応じ紹介する。

■到達目標

インテリア業界を幅広く知るとともに、業界で必要とされる基礎知識を身に付けます。

■試験方法

原則として試験は行いません。

■成績評価基準

課題作品：80%、受講姿勢：20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

インテリアデザインを学ぶ上での入口となる授業です。まずは幅広い知識の獲得と、自分自身の手を積極的に動かしながら模索することを楽しんでください。

科目名： インテリア概論		【講義】	
英文名： Introduction to Interior Design			
担当者：	石川貴子、大西崇之		
	本科目は、インテリアデザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次：	1年次	開講期：	通年
科目区分：	専門	必修	単位数： 8単位
<p>■授業概要</p> <p>デザイン概論を通じて学んだインテリアの基礎的な知識をもとに、演習問題等を繰り返す行うことで、学びを定着させることを目的としている。また、この授業はインテリアコーディネーター資格試験における学科試験対策も兼ねており、資格取得を目指すことも目的としている。</p> <p>第 1 回： 科目概要説明「前期インテリア概論で学ぶこと」 第 2 回： 販売・コンサルティング①応用 第 3 回： 販売・コンサルティング②応用 第 4 回： インテリア史①応用 第 5 回： インテリア史②応用 第 6 回： インテリア構法①応用 第 7 回： インテリア構法②応用 第 8 回： ファブリック①応用 第 9 回： ファブリック②応用 第 10 回： インテリア、エクステリアアクセサリ－・家具 応用 第 11 回： 法規（販売編・技術編）応用 第 12 回： 設備①応用 第 13 回： 設備②応用 第 14 回： 補講 第 15 回： 補講 第 16 回： 補講 第 17 回： 前期定期試験・前期講義ふりかえり 第 18 回： 科目概要説明「後期インテリア概論で学ぶこと」 第 19 回： 造形・色彩 応用 第 20 回： 一般常識 応用 第 21 回： 人間工学①応用 第 22 回： 人間工学②応用 第 23 回： 室内環境①応用 第 24 回： 室内環境②応用 第 25 回： ユニバーサルデザイン 応用 第 26 回： 照明①応用 第 27 回： 照明②応用 第 28 回： 建具①応用 第 29 回： 建具②応用 第 30 回： 仕上材①応用 第 31 回： 仕上材②応用 第 32 回： 全講義の振り返り</p> <p>■教科書 建築デザインの基礎、及び各テーマごとにプリントを配付する。</p> <p>■参考文献 課題内容に応じ紹介する。</p> <p>■到達目標 インテリア関連業務全般における基礎知識を身に付けます。（インテリア関連資格試験受験に必要な知識）</p> <p>■試験方法 定期試験（前期・後期）</p> <p>■成績評価基準 期末試験：60%、課題：25%、受講姿勢：15%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ ① 課題に取り組む姿勢を重視し、提出期限と出席チェックは厳しいです。 ② 課題テーマ（内容）については状況により変更する場合があります。</p>			

科目名： CAD基礎実習		【実習】	
英文名： Computer Aided Design			
担当者：	谷口恋、鍛治翔太		
	本科目は、建築CADへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 1年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>CADの基礎から応用までを実習を通して学び、多くの課題をこなすことにより、CADの特性や図面のルールを身に付けていきます。同時に進む製図の授業とのコラボレーションも取り入れたいと思います。CADとはどんなものか？手描き図面（スケッチ）とどこが異なるのか等、その長所と短所を理解すると共に、その利用方法、操作方法等を学びます。</p> <p>第 1 回： CADソフトの概説…コンピューターの利用方法、ソフトと基本操作の説明。</p> <p>第 2 回： 2Dの概説…2Dの利用方法、課題を作成しながら基本操作を学びます。</p> <p>第 3 回： 2Dの概説…2Dの利用方法、課題を作成しながら基本操作を学びます。</p> <p>第 4 回： 2Dの概説…2Dの利用方法、課題を作成しながら基本操作を学びます。</p> <p>第 5 回： 2Dの概説…2Dの利用方法、課題を作成しながら基本操作を学びます。</p> <p>第 6 回： 2Dの概説…2Dの利用方法、課題を作成しながら基本操作を学びます。</p> <p>第 7 回： 第1課題…平面図の作成、簡単な平面図の作成</p> <p>第 8 回： 第1課題…平面図の作成、簡単な平面図の作成</p> <p>第 9 回： 第2課題…平面図の作成、平面図の作成</p> <p>第 10 回： 第2課題…平面図の作成、平面図の作成</p> <p>第 11 回： 第3課題…平面図の作成、平面図の作成</p> <p>第 12 回： 第3課題…平面図の作成、平面図の作成</p> <p>第 13 回： 第3課題…平面図の作成、平面図の作成</p> <p>第 14 回： 2Dの復習と3Dの概説…3Dの基本操作、2Dと3Dの違い、3Dモデルの操作方法を説明します。</p> <p>第 15 回： 第4課題…3Dモデル作成、簡単な3Dモデルを作成</p> <p>第 16 回： 第4課題…3Dモデル作成、簡単な3Dモデルを作成</p> <p>■教科書 プリント</p> <p>■参考文献 Jw_CAD建築製図入門（X-Knowledge）、配布プリント</p> <p>■到達目標 業界業務における表現手法（プレゼンテーション）の必須技法を身に付けます。</p> <p>■試験方法 原則として試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 課題作品：80%、受講姿勢：20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 進行中の課題プリント及び筆記用具とスケールを必ず持参すること。</p>			

科目名： テクニカルⅠ

【実習】

英文名： Design of Living Space

担当者： 岸上純子

本科目は、建築意匠への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 専門 選択

単位数： 1単位

■授業概要

仕事を行う上でも特に重要となる技術の1つに図面での表現技法があります。これらはある一定のルールを身につけるだけで習得できるものではなく、「描くことそのものを考える」ことも重要となります。この授業では図面に描かれる様々な要素を細かく分解し、それぞれをしっかりと考えながら表現する課題を通じて、表現技法に幅を持たせることを目的としています。

第1回： 科目概要説明「スペースデザインについて…」課題：自己紹介をしてみよう

第2回： プレゼンテーションとは？ 課題：図面をプレゼンテーションをしてみよう①

第3回： 課題：図面をプレゼンテーションしてみよう②

第4回： 空間のスケールってなんだろう？ 課題：空間のスケールをあててみよう

第5回： プレゼンテーションとは？ 課題：建築ガイドマップをつくってみよう

第6回： 植栽表現、外構計画って？ 課題：植栽を描いてみよう

第7回： 家具ってどんなものがある？ 課題：ベンチをスケッチしてみよう

第8回： 空間ってなんだろう？ 課題：自分ともう一人のための空間を考えてみよう

第9回： 前半課題の仕上げ作業

第10回： この空間はどんな空間？ 課題：スライド写真の図面化

第11回： エスキス作業ってどうやってするの？ 課題：平面エスキスをスケッチを描いてみよう

第12回： 素材ってなんだろう？ 課題：素材の収集と表現

第13回： 実際の住宅をカスタマイズ 課題：住宅図面をトレースしてみよう

第14回： 課題：住宅図面に家具を配置してみよう

第15回： 最終プレゼン

第16回： 補講

■教科書

建築デザインの基礎（彰国社）及び、スライドまたは課題ごとにプリントを配付する。

■参考文献

建築デザインの基礎（彰国社）及び、各課題ごとにプリントを配付する。

■到達目標

業界業務のあらゆる場面（現場）での伝達手法としての図面での表現技法を身に付けます。

■試験方法

原則として試験は行わない。

■成績評価基準

課題作品：80%、受講姿勢：20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

- ① 課題に取り組む姿勢を重視し、提出期限と出席チェックは厳しいです。
- ② 課題テーマ（内容）については状況により変更する場合があります。

科目名： テクニカルⅡ		【実習】	
英文名： Sketch for Interior Design			
担当者：	室谷孝太郎		
	本科目は、空間デザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次：	1年次	開講期：	前期
科目区分：	専門	選択	単位数： 1単位
<p>■授業概要</p> <p>デザイナーに必要な基礎能力としての図学力、スケッチ力、空間及びモノを創り出しそれを伝えるまでの無形のモノを3次元的にかつビジュアルに表現できる知識と技術を実務・実践的に応用できる技として実習・演習を通して学習する。</p> <p>第 1 回： パースの基礎：インテリアスケッチについて・パースの基本・VPって何、透視図の種類</p> <p>第 2 回： 透視図の種類（1から3消点）・正方形の取り方・分割法</p> <p>第 3 回： 床の増殖・分割法・楕円の形</p> <p>第 4 回： パースラインの作り方・陰影のおはなし</p> <p>第 5 回： インテリア小物を描こう</p> <p>第 6 回： インテリア家具を描こう</p> <p>第 7 回： インテリア空間を描く：1消点パース・凹凸のある平面</p> <p>第 8 回： 勾配天井・出窓のある空間</p> <p>第 9 回： 内装材のテクスチャを描く</p> <p>第 10 回： インテリアパースの視点・スケッチパースに家具を描こう</p> <p>第 11 回： リビング・ダイニング</p> <p>第 12 回： 寝室</p> <p>第 13 回： 平面図着色</p> <p>第 14 回： パースグリッドで描く①</p> <p>第 15 回： パースグリッドで描く②</p> <p>第 16 回： パース演習：着色、マーカー、色鉛筆の着色テクニック</p> <p>■教科書 プリント、スライド等及び建築デザインの基礎（彰国社）</p> <p>■参考文献 課題内容に応じ紹介する。</p> <p>■到達目標 インテリア業界で仕事をする上で欠かすことのできない、パースを用いた表現の基本的な技法を身に付けます。</p> <p>■試験方法 原則として試験は行わない。</p> <p>■成績評価基準 課題作品：80%、受講姿勢：20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 課題材料は指示されたものを予め各自で用意しておくこと。頑張って下さい…。</p>			

科目名： 建築計画Ⅰ		【講義】	
英文名： Architectural Planning and Design Ⅰ			
担当者：	蒲田祐子		
	本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が担当する。 理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 1年次	開講期： 前期	科目区分： 基幹	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>建築というものは人間のための空間であり、その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければならない。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」を含めた総合的造形物として創造していくものである。この講義では、建築計画の概略〔総論〕から、身近な住宅を例に計画の基本的な考え方を身につけ、建築計画の意義と必要な基礎知識を養う。</p> <p>第 1 回： 計画概要…建築空間・人間のための空間・科学と芸術（時代、人、種類）・「強、用、美」</p> <p>第 2 回： 建築に与える影響と要素(1)…自然的要素について①</p> <p>第 3 回： 建築に与える影響と要素(2)…自然的要素について②</p> <p>第 4 回： 建築に与える影響と要素(3)…人為的要素について</p> <p>第 5 回： 建築における計画(1)／建築計画の役割</p> <p>第 6 回： 建築における計画(2)／構成とそのプロセス</p> <p>第 7 回： 建築における計画(3)／与条件の整理とイメージの構築</p> <p>第 8 回： 中間試験</p> <p>第 9 回： 建築の美と構成(1)／機能と形態について</p> <p>第 10 回： 建築の美と構成(2)／視覚と建築について</p> <p>第 11 回： 住居施設の計画(1)／住様式と住宅の変化</p> <p>第 12 回： 住居施設の計画(2)／設計の進め方</p> <p>第 13 回： 住居施設(1)／独立住宅など</p> <p>第 14 回： 住居施設(2)／集合住宅など</p> <p>第 15 回： 住居施設(3)／バリアフリー等について</p> <p>第 16 回： 建築計画Ⅰのまとめ、期末試験</p> <p>■教科書 プリント、初学者の建築講座 建築計画（市ヶ谷出版社）</p> <p>■参考文献 コンパクト建築設計資料集成（丸善）</p> <p>■到達目標 建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身に付ける。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として定期試験の受験資格が無い。</p> <p>■成績評価基準 定期試験55%、中間試験25%、演習10%、受講姿勢10%を原則とする。</p> <p>■受講生へのメッセージ 建築計画は、建築空間の設計の基本となるので、しっかり理解して下さい。 また、日常生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。</p>			

科目名： 建築計画Ⅱ

【講義】

英文名： Architectural Planning and Design Ⅱ

担当者： 蒲田祐子

本科目は、建築計画への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が担当する。
理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築計画Ⅰで学んだ「総論」および住居施設の計画についての要点を振り返りながら、建築計画の「各論」から、学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設などの機能・用途をその実例と演習問題を交えつつ、「外部空間の計画」も含めた、具体的かつ、総合的な計画手法と基礎的な知識を養う。

- 第 1 回： 学校教育施設Ⅰ／幼稚園・保育所など
- 第 2 回： 学校教育施設Ⅱ／小学校・中学校など
- 第 3 回： 社会教育施設Ⅰ／図書館など
- 第 4 回： 社会教育施設Ⅱ／美術館など
- 第 5 回： 社会教育施設Ⅲ／コミュニティセンター・公民館など
- 第 6 回： 福祉・医療施設Ⅰ／高齢者施設・バリアフリーなど
- 第 7 回： 福祉・医療施設Ⅱ／診療所・病院など
- 第 8 回： 中間試験
- 第 9 回： 商業施設Ⅰ／事務所ビルなど
- 第 10 回： 商業施設Ⅱ／劇場・音楽ホールなど
- 第 11 回： 商業施設Ⅲ／①百貨店・スーパーマーケットなど
- 第 12 回： 商業施設Ⅲ／②レストラン・飲食店など
- 第 13 回： 商業施設Ⅳ／ホテル（旅館）・駐車場など
- 第 14 回： 外部空間の計画Ⅰ／外部空間の把握
- 第 15 回： 外部空間の計画Ⅱ／外部空間の計画手法
- 第 16 回： 建築計画Ⅱのまとめ、期末試験

■教科書

プリント、初学者の建築講座 建築計画（市ヶ谷出版社）

■参考文献

コンパクト建築設計資料集成（丸善）

■到達目標

建築物を実際に設計する際の基本的な知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。但し出席率が80%に満たない場合は原則として定期試験の受験資格が無い。

■成績評価基準

定期試験55%、中間試験25%、演習10%、受講姿勢10%を原則とする。

■受講生へのメッセージ

建築計画は、建築空間の設計の基本となるので、しっかり理解して下さい。
また、日常生活・社会との関連を意識しながら学ぶように心がけて下さい。

科目名： 建築史Ⅰ

【講義】

英文名： Architectural History Ⅰ

担当者： 西田貴人

本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。

第 1 回： 建築の始原…そもそも建築とは何かを問い、建築の発生について考える

第 2 回： エジプト・オリエント建築…西洋文明の源泉の建築を通じて建築の象徴性・意味性を中心に考える

第 3 回： ギリシア・ローマ建築…古典主義建築の基礎の理解、ギリシア・ローマ建築の空間比較

第 4 回： 初期キリスト教・ビザンチン建築…二つのキリスト教建築の空間比較

第 5 回： ロマネスク・ゴシック建築…非古典主義系建築の空間と西洋におけるその位置

第 6 回： ルネサンス建築…古典主義建築を言語としてとらえ、様式の意味と設計者の心情について考える

第 7 回： 古典主義建築…西洋建築の主流である古典主義建築について整理し、近代建築との関連を考える

第 8 回： 西洋建築まとめ・中間試験

第 9 回： 日本建築の特質…西洋建築との比較から日本建築の特質について考える

第 10 回： 神社建築…「神社」の発生を考えることから、建築の意味について考える

第 11 回： 寺院建築①…中国からの移入建築である寺院建築が日本建築の形成に与えたものを考える

第 12 回： 住宅建築①…住宅建築を中心に日本に発生した空間観を考える 間面記法、室礼、半間仕切

第 13 回： 寺院建築②…鎌倉期に移入された新建築の日本建築の意義を考える

第 14 回： 住宅建築②…書院造り・数寄屋造りを通じて、日本における様式について考える

第 15 回： 日本建築の空間…付加と分割、日本思想と空間、日本建築と近代建築

第 16 回： 定期試験・日本建築史まとめ・全講義ふりかえり

■教科書

コンパクト版 建築史【日本・西洋】（彰国社）

■参考文献

図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）

■到達目標

①西洋および日本建築史の各時代の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に説

■試験方法

定期試験をおこなう。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%

■受講生へのメッセージ

本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築史Ⅱ		【講義】	
英文名： Architectural History Ⅱ			
担当者：	西田貴人		
	本科目は、建築史への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次：	1年次	開講期：	後期
		科目区分：	基幹
			単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。</p> <p>第 1 回：近代建築とは…そもそも近代とは何か、近代建築の建築史的意義について</p> <p>第 2 回：産業革命と都市問題…産業革命が建築と都市に与えた影響について</p> <p>第 3 回：新芸術運動とその展開…アーツ・アンド・クラフツ、ドイツ工作連盟等について</p> <p>第 4 回：近代前衛芸術運動と建築…イタリア未来派、ドイツ表現主義、ロシア構成主義、デ・ステール等について</p> <p>第 5 回：モダニズム建築の完成と流布…ハウハウスとグロピウス、インターナショナルスタイルについて</p> <p>第 6 回：ライトとアメリカ近代建築の動向…アメリカの近代建築とライトの建築について</p> <p>第 7 回：ル・コルビュジェとミース…ル・コルビュジェ、ミース・ファン・デル・ローエについて</p> <p>第 8 回：近代建築の流れの総括・中間試験</p> <p>第 9 回：日本近代建築史のとらえ方…日本における近代と近代建築の意味について</p> <p>第 10 回：西洋建築の移入と様式建築の展開…西洋建築が日本にいかに移入・受容されたかについて</p> <p>第 11 回：日本のモダニズム建築成立までの動向と展開…日本におけるモダニズム建築の特徴について</p> <p>第 12 回：戦後の日本建築界の動向…戦後復興期の日本近代建築の特徴と意義について</p> <p>第 13 回：第二次世界大戦後のモダニズム建築の動向…戦後の欧米における建築とその思想について</p> <p>第 14 回：ポストモダニズム建築とそれ以後…ポストモダニズム建築の特徴とモダニズム批判の根拠について</p> <p>第 15 回：現代建築の動向…日本および世界の現代建築家の思想と作品</p> <p>第 16 回：定期試験・日本近代建築史まとめ</p>			
<p>■教科書</p> <p>コンパクト版 建築史【日本・西洋】（彰国社）</p>			
<p>■参考文献</p> <p>図説建築の歴史（学芸出版社）、ヨーロッパ建築史（昭和堂）、日本建築史（昭和堂）</p>			
<p>■到達目標</p> <p>①西洋および日本近代建築の建築的特質を説明できる。②歴史を学び、現在を考え、未来を展望する意義を具体的に説明できる。</p>			
<p>■試験方法</p> <p>定期試験をおこなう。</p>			
<p>■成績評価基準</p> <p>期末試験60%、中間試験20%、小演習20%</p>			
<p>■受講生へのメッセージ</p> <p>本講は単なる建築の歴史の暗記ではなく、今日の建築・インテリア設計に役立つものとして学ぶ姿勢が大切です。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 建築法規Ⅰ

【講義】

英文名： Building Regulation Ⅰ

担当者： 武田能通

本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。

第 1 回： 科目ガイダンス、建築法令概説…なぜ建築法令が必要か、建築法令の歴史、建築基準法の構成 読み方

第 2 回： 用語の定義1…建築の定義、建築物の定義

第 3 回： 用語の定義2…敷地の定義、敷地の面積

第 4 回： 用語の定義3…居室の定義、天井の高さ、床高さ

第 5 回： 用語の定義4…居室の採光

第 6 回： 用語の定義5…建築面積、床面積

第 7 回： 用語の定義6…建築物の高さ、軒高、建築物の階段

第 8 回： 用語の定義7・中間試験…各法令のまとめと全講義のふりかえり

第 9 回： 用語の定義8…主要構造部、構造耐力上主要な部分、耐火建築物、準耐火建築物、不燃材料、防火構造

第 10 回： 用語の定義9…その他

第 11 回： 単体規定1…木造の規定

第 12 回： 単体規定2…木造耐力壁の算定

第 13 回： 単体規定3…鉄筋コンクリート造の規定

第 14 回： 単体規定4…鉄骨造の規定

第 15 回： 単体規定5…補強CB造の規定

第 16 回： 単体規定6…その他の規定、 前期まとめ

■教科書

基本建築関係法令集〔法令編〕（井上書院）

■参考文献

建築法規用教材（日本建築学会編）

■到達目標

建築計画上欠かせない主要な建築法規と、建築実務に必要な基本的法令用語を理解するとともに、運用する力を身に付ける。

■試験方法

中間試験と定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

建築法令は、建築という実体を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。授業支援システムを用い、授業概要による予習と振り返り問題による復習を強く薦める。

科目名： 建築法規Ⅱ

【講義】

英文名： Building Regulation Ⅱ

担当者： 武田能通

本科目は、建築法令への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。

第 1 回： 集団規定1…道路の定義、道路の役割、接道義務道路内建築制限、42条第2項道路の扱い

第 2 回： 集団規定2…都市計画区域、市街化区域と市街化調整区域

第 3 回： 集団規定3…用途地域全12種の名称と違い

第 4 回： 集団規定4…建ぺい率（建築面積の敷地面積に対する割合）

第 5 回： 集団規定5…容積率（延べ床面積の敷地面積に対する割合）

第 6 回： 集団規定6…高さの制限その1 道路斜線

第 7 回： 集団規定7…高さの制限その2 隣地斜線、北側斜線

第 8 回： 集団規定8・中間試験…各法令のまとめと全講義のふりかえり

第 9 回： 集団規定9…建ぺい率・容積率・高さの制限について大演習と解説

第 10 回： 集団規定10…法22条区域、防火地域、準防火地域

第 11 回： 建築士法1…建築士の業務について

第 12 回： 建築士法2…建築士の業務について

第 13 回： 建築士法3…建築士の倫理観等について

第 14 回： 確認申請について…確認申請とは、確認申請と建築物

第 15 回： 関係法令1…建設業法、宅建業法等

第 16 回： 関係法令2…各法の概要、特定建築物、特定施設、その他

■教科書

コンパクト[井上]建築関係法令集（井上書院）

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築設計、施工に必要な法律の基礎知識を身につける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

建築法令は、建築という実態を伴うものを文章のみの法令で規制しているため、文言が理解し辛いという面がある。その点を補うためにプリントを多数用意しており、法令とプリントとの関連に注意すること。建築法令は暗記する必要はなし。法令集の必要なページを開き、要点が理解出来ておれば充分。

科目名： 建築一般構造Ⅰ

【講義】

英文名： Building ConstructionⅠ

担当者： 土屋稔

本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考える。

第1回： ガイダンス及び概説…建築物の性能と構成

第2回： 構造方式の種類…ラーメン構造とトラス構造

第3回： 荷重と外力（1）…建築物に影響する力（地震力、風圧力等）

第4回： 荷重と外力（2）…構造計画に関わる用語について

第5回： 地盤について…地盤の分類と特徴

第6回： 地盤調査…標準貫入試験と土質試験

第7回： 基礎と杭（1）…支持杭と摩擦杭、打込杭と埋込杭

第8回： 基礎と杭（2）…場所打ち杭の種類と工法

第9回： 基礎と杭（3）…その他の杭（木杭等）・中間試験

第10回： 木構造（1）…木材について

第11回： 木構造（2）…木構造の基礎と軸組

第12回： 木構造（3）…筋違とその配置について

第13回： 木構造（4）…屋根勾配と和小屋組について

第14回： 木構造（5）…洋小屋組みについて

第15回： 木構造（6）…床組について

第16回： 木構造のまとめ・期末試験

■教科書

建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）

■参考文献

建築大辞典（彰国社）

■到達目標

建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける。（設計や施工等の領域を問わない知識）

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。

科目名： 建築一般構造Ⅱ

【講義】

英文名： Building Construction Ⅱ

担当者： 土屋稔

本科目は、建築一般構造への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。

- 第 1 回：鉄骨造（1）…鋼材の特徴と規格について
- 第 2 回：鉄骨造（2）…鋼材の種類と形鋼
- 第 3 回：鉄骨造（3）…鉄骨構造の構造形式
- 第 4 回：鉄骨造（4）…各部材（柱・はり等について）
- 第 5 回：鉄骨造（5）…溶接について
- 第 6 回：鉄骨造（6）…高力ボルト接合
- 第 7 回：鉄骨造（7）…継手と仕口
- 第 8 回：鉄骨構造のまとめ・中間試験
- 第 9 回：鉄筋コンクリート構造（1）…鉄筋コンクリート造の特徴と構造原理
- 第 10 回：鉄筋コンクリート構造（2）…材料と配筋原理
- 第 11 回：鉄筋コンクリート構造（3）…継手と定着、あき寸法
- 第 12 回：鉄筋コンクリート構造（4）…各部材1（柱・梁）
- 第 13 回：鉄筋コンクリート構造（5）…各部材2（スラブ・壁）
- 第 14 回：鉄筋コンクリート構造（6）…その他の構造
- 第 15 回：壁式構造…制限等の構造基準について
- 第 16 回：鉄筋コンクリート構造のまとめ・期末試験

■教科書

建築構法第Ⅲ版（市ヶ谷出版）

■参考文献

建築大辞典（彰国社）

■到達目標

建築を学ぶうえでの入門的な知識を身に付ける。（設計や施工等の領域を問わない知識）

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験50%、中間試験30%、小演習・受講姿勢20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

本科目は建築のしくみを学ぶ基礎科目です、確実に習得しましょう。

科目名： 構造力学Ⅰ

【講義】

英文名： Structural Mechanics Ⅰ

担当者： 宗林功

本科目は、構造力学への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。

第 1 回： 建築物に働く力…建築物の骨組、力学と構造設計の関係、建築物に働く力について

第 2 回： 力の基本…力の合成と分解、力のモーメント

第 3 回： 構造物のモデル化…構造物の種類、支点と節点、荷重および外力の種類、構造物をモデル化すること

第 4 回： 反力1…力のつりあいと反力、反力計算の方法

第 5 回： 反力2…静定構造物（単純梁・片持梁）の支点に生じる反力について、解説と演習

第 6 回： 反力3…静定構造物（ラーメン・トラス）の支点に生じる反力について、解説と演習

第 7 回： 静定構造物の解析1…構造物に生ずる力の種類、力の表し方、求め方

第 8 回： 静定構造物の解析2…各種の荷重が作用する単純梁の応力解析について、解説と演習

第 9 回： 静定構造物の解析3…各種の荷重が作用する片持梁の応力解析について、解説と演習、中間試験

第 10 回： 静定構造物の解析4…静定ラーメン（単純梁系、片持梁）の応力解析について、解説と演習

第 11 回： 静定構造物の解析5…3ヒンジラーメンやゲルバー梁の応力解析について、解説と演習

第 12 回： 静定構造物の解析6…静定梁、静定ラーメンの応力解析まとめ

第 13 回： 静定構造物の解析7…静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力

第 14 回： 静定構造物の解析8…節点法による静定トラスの応力解析について、解説と演習

第 15 回： 静定構造物の解析9…切断法による静定トラスの応力解析について、解説と演習

第 16 回： 静定構造物の構造力学についてまとめ、期末試験

■教科書

初めての建築構造力学（学芸出版社）

■参考文献

特になし。

■到達目標

安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。

計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

科目名： 構造力学Ⅱ

【講義】

英文名： Structural Mechanics Ⅱ

担当者： 松村隆平

本科目は、構造力学への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。

第1回： 構造力学Ⅰの復習…静定構造物の反力計算から応力解析についてのまとめ

第2回： 材料力学1…応力と応力度、応力度の種類、ひずみ度、ポアソン比とは

第3回： 材料力学2…弾性体の性質、弾性と塑性、応力度-ひずみ度曲線とヤング係数

第4回： 材料力学3…材料強度、許容応力度と安全率、材料力学まとめ及び演習課題

第5回： 断面の性質1…断面1次モーメントと図心、断面2次モーメントの求め方とその意味

第6回： 断面の性質2…断面係数、断面2次半径、断面の主軸

第7回： 断面の性質3…断面の性質まとめ及び演習課題

第8回： 部材の設計1…引張材の設計について解説と演習、引張応力度、有効断面積

第9回： 部材の設計2…曲げ材の設計について解説と演習1、曲げ応力度、せん断応力度

第10回： 部材の設計3…曲げ材の設計について解説と演習2、 中間試験

第11回： 部材の設計4…圧縮材の設計について解説と演習1、圧縮応力度、オイラーの長柱公式

第12回： 梁の変形…単純梁や片持梁のたわみとたわみ角、モールの定理について解説と演習

第13回： 不静定構造物の解析1…不静定梁の解析と演習、不静定力とは

第14回： 不静定構造物の解析2…不静定ラーメンの応力（たわみ角法、固定モーメント法）、解説と演習

第15回： 不静定構造物の解析3…不静定ラーメンの応力（D値法、その他略算法）

第16回： 不静定構造物の解析4…不静定構造物の解析まとめ、期末試験

■教科書

初めての建築構造力学（学芸出版社）

■参考文献

特になし。

■到達目標

安全な建築物を設計するための基礎知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

毎回、関数電卓を忘れずに持参すること。

計算そのものは簡単な数式だが、基礎からの積み上げが必要な内容なので確実に出席するようにして下さい。

科目名： 情報処理論

【講義／演習】

英文名： Information Processing

担当者： 大西崇之、鍛治翔太

担当者：

本科目は、情報処理への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 1年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築技術者でも、ITリテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンに触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。

第 1 回： 初回ガイダンス…授業の位置づけ、評価方法、コンピュータについて（ハード、ソフトの説明）等

第 2 回： Jw_CAD基本操作①：線をかく、線の色と種類を決める

第 3 回： Jw_CAD基本操作②：線の複写・伸縮・コーナー処理・面取り・線を消去・連結する

第 4 回： Jw_CAD基本操作③：矩形をかく・矩形をかき、複写、移動、消去する

第 5 回： Jw_CAD基本操作④：平行2重線をかく・既存線の中心線、垂線、分割線をかく

第 6 回： Jw_CAD基本操作⑤：円・円弧・楕円をかく・文字をかく

第 7 回： Jw_CAD基本操作⑥：かいた文字の変更や特殊文字の入力・図形と文字の複写・移動

第 8 回： Jw_CAD基本操作⑦：図形面を模（ハッチ）で埋め尽くす・寸法をかく

第 9 回： Jw_CAD基本操作⑧：図形面を着色する（ソリッド）・包絡処理やパラメトリック変形を行う

第 10 回： Jw_CAD基本操作⑨：特殊な線をかく・多角形、連続線、手描き風線などをかく

第 11 回： Jw_CAD基本操作⑩：線記号変形、パラメトリック変形、伸縮、範囲選択の応用・平面図に建具記号をかく

第 12 回： Illustrator基本操作①：データ形式の違い（ラスター形式、ベクトル形式）、CADデータ形式の変換

第 13 回： 中間試験（Jw_CAD、Illustratorの基本操作）

第 14 回： Illustrator基本操作②：添景の入れ方、写真の入れ方、文字入力

第 15 回： Illustrator基本操作③：レイアウト、作業データの保存方法

第 16 回： クラウドストレージの使い方、全体振り返り、まとめ

■教科書

Jw_CAD建築製図入門（X-Knowledge）、配布プリント

■参考文献

特になし。

■到達目標

CADの基本操作を学びながら、PCを使ったプレゼンテーションに至るまで基本的なスキルを身に付ける。

■試験方法

定期試験はおこなわない。

■成績評価基準

課題作品：60%、中間試験：20%、受講姿勢：20%

■受講生へのメッセージ

コンピュータは便利な機械であるが、地道に使い続けることで自分のための道具となる。

科目名： 建築施工法 I

【講義】

英文名： Construction Method I

担当者： 緒方幸樹

本科目は、工事現場への造詣が深く又現場管理及び設計監理実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 1年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。この建築施工法 I の講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。

第 1 回： 建築施工の意義、講義の位置づけ

第 2 回： 施工計画（1）…施工計画にあたり注意すべき事項、各種工程表について

第 3 回： 施工計画（2）…各種工程表の特色と理解

第 4 回： 地盤調査…地盤調査と各種試験法

第 5 回： 仮設工事…足場や仮囲い、材料の保管

第 6 回： 土工事 …山止め、地盤現象とその原因

第 7 回： 地業、基礎工事…各地業、杭の種類と特徴

第 8 回： 鉄骨工事…鉄骨構造の工事計画、材料や加工・接合方法など

第 9 回： 鉄筋コンクリート工事…型枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事

第 10 回： 中間試験…仮設計画及び鉄筋コンクリート工事のまとめ

第 11 回： 木工事…木質構造の特徴と種類、工事計画、材料や加工

第 12 回： 補強コンクリートブロック工事…補強コンクリートブロックを使用した工法や特色、材料について

第 13 回： 防水工事・屋根工事…防水工事の各種工法や特徴。屋根葺き材料ごとの工法や特徴

第 14 回： 左官工事…各種下地と仕上げ材料による工法や特徴

第 15 回： タイル、張り石工事、建具、内装工事…タイル、張り石工事の工法や特徴、建具、内装工事

第 16 回： 仕上工事のまとめ、期末試験

■教科書

建築施工法 I 講義用テキスト（本校作成テキスト）

■参考文献

特になし。

■到達目標

建築施工において必要な基礎知識を身につけます。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

基本的な施工用語や工法を知ることは技術者として当たり前のことです。頑張りましょう。

科目名： キャリアデザイン I

【講義】

英文名： Career Design I

担当者：

クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫、西村彩

業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。

開講年次： 1年次

開講期： 通年

科目区分： 特別 必修

単位数： 2単位

■授業概要

①業界における仕事を高めるべく、業界の構成、仕組み、役割、仕事の内容、立ち位置などを知り、目指す方向性を見出すための知識を習得する。次に、実際の就職活動を想定した履歴書作成、面接対策等のトレーニングを重ねる。②就職活動のみならず社会人としても基礎学力の確実な養成は不可欠である。国語、数学を主とした中学校、高等学校レベルの基礎学力向上を図る。

- 第 1 回： ガイダンス／当授業科目の概要、目的、到達目標について、就職対策、基礎学力の双方から解説する。
第 2 回： 就職対策①／学生、アルバイトと社会人との違いについて。
第 3 回： 基礎学力①／漢字チェックテスト、計算チェックテストの実施。
第 4 回： 就職対策②／社会人として、組織人としての役割、責任、自覚。
第 5 回： 基礎学力②／国語・説明的文章：接続語、数学：正の数、負の数、式の計算
第 6 回： 就職対策③／業界を知る 1。総合建設会社、ハウスメーカー
第 7 回： 基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根
第 8 回： 就職対策④／業界を知る 2。工務店、建築設計事務所、その他。
第 9 回： 基礎学力④／国語・説明的文章：文章内容読み取り、数学：1次方程式
第 10 回： 就職対策⑤／職種を知る 1。設計職
第 11 回： 基礎学力⑤／国語・説明的文章：理由を捉える、数学：連立方程式
第 12 回： 就職対策⑥／職種を知る 2。施工管理職
第 13 回： 基礎学力⑥／国語・説明的文章：筆者の主張を読み取る、数学：2次方程式
第 14 回： 就職対策⑦／職種を知る 3。その他の職種（積算職、営業職、インテリアコーディネーター他）
第 15 回： 基礎学力⑦／国語・文学的文章：言葉を考える、数学：比例と反比例
第 16 回： 就職対策⑧／就職活動の流れ 1。志望企業の選択から具体的な活動に至るまで。
第 17 回： 基礎学力⑧／国語・文学的文章：様子を考える、数学：1次関数
第 18 回： 就職対策⑨／就職活動の流れ 2。大企業と中小企業、採用スケジュールの違い。
第 19 回： 基礎学力⑨／国語・文学的文章：心情の読み取り、数学：関数 $y=ax^2$
第 20 回： 就職対策⑩／求人票の見方 1。会社データ、募集条件（社会保険）
第 21 回： 基礎学力⑩／国語・文学的文章：理由を捉える、数学：確率
第 22 回： 就職対策⑪／求人票の見方 2。採用職種、募集条件（待遇）、選考方法
第 23 回： 基礎学力⑪／国語・文学的文章：表現の特徴を捉える、数学：平面図形
第 24 回： 就職対策⑫／選考方法を知る。書類選考、SPI試験、エントリーシート、面接
第 25 回： 基礎学力⑫／国語・古文：動作主を捉える、数学：空間図形
第 26 回： 就職対策⑬／履歴書を書く 1。自己PRの作成
第 27 回： 基礎学力⑬／国語・古文：主題を読み取る、数学：三角形と四角形
第 28 回： 就職対策⑭／履歴書を書く 2。志望動機の作成
第 29 回： 基礎学力⑭／国語・漢文、数学：円
第 30 回： 就職対策⑮／履歴書を書く 3。全体構成の把握
第 31 回： 国語チェックテスト、数学チェックテスト
第 32 回： 履歴書完成 特定企業を想定した本作成

■教科書

プリント利用

■参考文献

授業の中で適時紹介します。

■到達目標

社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。

■試験方法

履歴書の成果物、国語・数学のチェックテストを試験とします。

■成績評価基準

提出物 20%、出席点 80%で評価します。

■受講生へのメッセージ

本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。

科目名： 設計製図Ⅱ

【実習】

英文名： Architectural Plan, Design and Drawing II

担当者： 大西崇之、永井哲哉

本科目は、建築意匠への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることを前提条件にして設計演習を行う。集合住宅、公共建築物を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解する。また、BIMなども駆使したICTスキルの向上も目指す。

- 第1回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
- 第2回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その1（エスキス）
- 第3回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その2（エスキス）
- 第4回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その3（エスキス）
- 第5回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その4（エスキス）
- 第6回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その5（エスキス）
- 第7回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…建物と条件の整理と全体構想その6（エスキス）
- 第8回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その1
- 第9回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その2
- 第10回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その3
- 第11回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その4
- 第12回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その5
- 第13回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その6
- 第14回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…プレゼンテーション用図面作製その7
- 第15回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…発表・講評・提出
- 第16回：第1課題「集まって住むことを考える（集合住宅設計）」…最終プレゼンテーション提出
- 第17回：第2課題「インテリアプランニング」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
- 第18回：第2課題「インテリアプランニング」…建物と条件の整理と全体構想その1（エスキス）
- 第19回：第2課題「インテリアプランニング」…建物と条件の整理と全体構想その2（エスキス）
- 第20回：第2課題「インテリアプランニング」…模型作製
- 第21回：第2課題「インテリアプランニング」…図面作製その1
- 第22回：第2課題「インテリアプランニング」…図面作製その2
- 第23回：第2課題「インテリアプランニング」…プレゼンテーション用図面作製
- 第24回：第2課題「インテリアプランニング」…発表・講評・提出
- 第25回：第3課題「公共建築物」…課題発表、敷地条件・周辺環境の分析と整理
- 第26回：第3課題「公共建築物」…建物と条件の整理と全体構想その1（エスキス）
- 第27回：第3課題「公共建築物」…建物と条件の整理と全体構想その2（エスキス）
- 第28回：第3課題「公共建築物」…プレゼンテーション用図面作製その1
- 第29回：第3課題「公共建築物」…プレゼンテーション用図面作製その2
- 第30回：第3課題「公共建築物」…プレゼンテーション用図面作製その3
- 第31回：第3課題「公共建築物」…プレゼンテーション用図面作製その4
- 第32回：第3課題「公共建築物」…発表・講評・提出・総括

■教科書

■参考文献

建築設計資料集成（丸善）

■到達目標

公共建築物の計画を通して建築設計、製図についての能力を身に付ける。

■試験方法

試験は行わない。

■成績評価基準

作品のクオリティーや受講姿勢で評価する。

■受講生へのメッセージ

集合住宅や公共建築物など多くの人々が使う建築物の計画を通して、建築の成り立ちを理解すると共に、図面や模型を通じて人に伝えることの大切さを知ってほしい。また、BIMなども駆使したICTスキルの向上も目指す。

科目名： 建築製図Ⅱ

【実習】

英文名： Architectural Drafting and the Development of its Skill II

担当者： 大西崇之、鍛治翔太

本科目は、建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せられた諸条件のもとで鉄筋コンクリート構造の4階建事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造4階建て建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。

- 第 1 回： 第7ターム「建築設計製図課題①」…RC造の計画と設計・製図（作図）手法について
- 第 2 回： 第7ターム「建築設計製図課題②」…RC造の事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その1
- 第 3 回： 第7ターム「建築設計製図課題③」…RC造の事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その2
- 第 4 回： 第7ターム「建築設計製図課題④」…RC造の事務所ビル 平面図、断面図、立面図 その3
- 第 5 回： 第8ターム「建築設計製図課題①」…RC造の事務所ビル 納まりの設計演習 その1（内部詳細）
- 第 6 回： 第8ターム「建築設計製図課題②」…RC造の事務所ビル 納まりの設計演習 その2（内部詳細）
- 第 7 回： 第8ターム「建築設計製図課題③」…RC造の事務所ビル 矩計図詳細図 その1
- 第 8 回： 第8ターム「建築設計製図課題④」…RC造の事務所ビル 矩計図詳細図 その2
- 第 9 回： 第9ターム「建築設計製図課題①」…RC造の事務所ビル 平面詳細図 その1
- 第 10 回： 第9ターム「建築設計製図課題②」…RC造の事務所ビル 平面詳細図 その2
- 第 11 回： 第9ターム「建築設計製図課題③」…RC造の事務所ビル 階段詳細図 1
- 第 12 回： 第9ターム「建築設計製図課題④」…RC造の事務所ビル 階段詳細図 2
- 第 13 回： 前期補習作業・前期製図試験「傾向と対策」
- 第 14 回： 前期製図試験 その1
- 第 15 回： 前期製図試験 その2
- 第 16 回： 夏期ターム「建築設計製図課題演習①」…夏期課題：集合住宅（RC造）
- 第 17 回： 第10ターム「建築設計製図課題①」…RC造の事務所ビル 構造計画と構造図 1
- 第 18 回： 第10ターム「建築設計製図課題②」…RC造の事務所ビル 構造計画と構造図 2
- 第 19 回： 第11ターム「建築設計製図課題①」…共同住宅の計画と設計・製図（作図）手法について
- 第 20 回： 第11ターム「建築設計製図課題②」…共同住宅 床伏図 その1
- 第 21 回： 第11ターム「建築設計製図課題③」…共同住宅 床伏図 その2
- 第 22 回： 第11ターム「建築設計製図課題④」…共同住宅 軸組図 その1
- 第 23 回： 第11ターム「建築設計製図課題⑤」…共同住宅 軸組図 その2
- 第 24 回： 第12ターム「建築設計製図課題①」…共同住宅 詳細図 その1
- 第 25 回： 第12ターム「建築設計製図課題②」…共同住宅 詳細図 その2
- 第 26 回： 第12ターム「建築設計製図課題③」…共同住宅 詳細図 その3
- 第 27 回： 第13ターム「建築設計製図課題①」…共同住宅 矩計図詳細図 その1
- 第 28 回： 第13ターム「建築設計製図課題②」…共同住宅 矩計図詳細図 その2
- 第 29 回： 春期ターム「建築設計製図課題演習②」…春期課題：公共建築物
- 第 30 回： 後期製図試験 その1
- 第 31 回： 後期製図試験 その2
- 第 32 回： 課題提出、後期試験・全体講評

■教科書

なし（プリント配布）

■参考文献

建築構法（市ヶ谷出版）、必携 建築資料（ビジュアルハンドブック）（実教出版）

■到達目標

建築設計施工における鉄筋コンクリート造、鉄骨造の設計製図能力を身につける。

■試験方法

定期試験（実技）を行う。

■成績評価基準

定期製図試験60%、通常課題（夏・春課題含）25%、平常点（受講姿勢等）15%を原則とする。

■受講生へのメッセージ

- ・前期・後期とも、出席率が80%未満の者は原則として定期試験の受験資格が無い。
- ・病欠や忌引きのとき、または不慮の事故等の際は必ずすみやかに担当者まで連絡し、指示を受けて下さい。

科目名： スペースデザイン a

【実習】

英文名： Design of space a

担当者： 川名一吉、西小佑里、大西崇之

本科目は、空間デザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

私たちの生きる時代には様々な問題があります。それらを身近に感じることで、現代におけるデザイナーの役割が見えてきます。結果、それは「デザイン」の領域への視野を広げることにつながるのです。この授業はチーム作業を主としています。チーム作業での複眼的なアプローチを通じ、その視野を獲得してください。なお、後期からは個人プロジェクトとして取り組みます。

第 1 回： 科目概要説明「さまざまなデザインについて」

第 2 回： デザインの「手法」を学ぶ①

第 3 回： デザインの「手法」を学ぶ②

第 4 回： デザインの「手法」を学ぶ③

第 5 回： デザインの「手法」を学ぶ④

第 6 回： リサーチ課題A チーム作業①

第 7 回： リサーチ課題A チーム作業②

第 8 回： リサーチ課題A チーム作業③

第 9 回： 学外講師レクチャー①

第 10 回： リサーチ課題A 発表・講評

第 11 回： リサーチ課題B チーム作業①

第 12 回： リサーチ課題B チーム作業②

第 13 回： 学外講師レクチャー②

第 14 回： リサーチ課題B チーム作業③

第 15 回： リサーチ課題B チーム作業④

第 16 回： リサーチ課題B 発表・講評

第 17 回： 個人プロジェクトA-1

第 18 回： 個人プロジェクトA-2

第 19 回： 個人プロジェクトA-3

第 20 回： 個人プロジェクトA-4

第 21 回： 個人プロジェクトA-5

第 22 回： 個人プロジェクトA-6

第 23 回： 個人プロジェクトA-7

第 24 回： 個人プロジェクトA-8

第 25 回： 中間講評

第 26 回： 個人プロジェクトB-1

第 27 回： 個人プロジェクトB-2

第 28 回： 個人プロジェクトB-3

第 29 回： 個人プロジェクトB-4

第 30 回： 個人プロジェクトB-5

第 31 回： 課題作品発表と講評

第 32 回： 全体総括

各自のテーマと実力及び進捗状況をみながら指導内容を考える。

■教科書

教科書は無し。課題ごとにプリントを配付する。

■参考文献

課題内容に応じ紹介する。

■到達目標

様々な問題に気づき、解決するための「技術」を通して、社会で必要とされる問題解決能力を身に付けます。

■試験方法

原則として試験は行わない。

■成績評価基準

課題作品：70%、出席（受講態度）：30%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

直接的にモノをデザインする授業ではありません。ですが、この授業で養われる技術はこの先を生きる上でも重要なものとなります。肩の力を抜き、五感をフルに活用しつつ楽しみながら取り組んでください。

科目名： スペースデザインb

【実習】

英文名： Design of space b

担当者： 室谷孝太郎、川名一吉、大西崇之

本科目は、空間デザインへの造詣が深く建築設計実務、BIMおよび建築CADを長年経験し、設計教育に対する深い見識と実務経験を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

インテリア業界での仕事イメージから作成された課題（キャリアイメージ課題）を通じ、実際に仕事を行う上で必要な様々な技術を実践的に学ぶ。また、これらの課題から自身の進路を模索するためのきっかけを得ることも目的としている。なお、後期からは個人プロジェクトとして取り組む。また、BIMソフトウェアの習得も行き、設計課題との積極的な連携を図る。

第1回： 科目概要説明・第1課題「オフィス空間の家具・什器レイアウト」①

第2回： 第1課題「オフィス空間の家具・什器レイアウト」②

第3回： 第2課題「内装材コーディネート」①

第4回： 第2課題「内装材コーディネート」②

第5回： 第2課題「内装材コーディネート」③

第6回： 第3課題「LDKコーディネート」①

第7回： 第3課題「LDKコーディネート」②

第8回： 第3課題「LDKコーディネート」③

第9回： 第3課題「LDKコーディネート」④

第10回： 第4課題「ライティング計画」①

第11回： 第4課題「ライティング計画」②

第12回： 第4課題「ライティング計画」③

第13回： 第5課題「エクステリア空間の計画」①

第14回： 第5課題「エクステリア空間の計画」②

第15回： 第6課題「トイレ空間のコーディネート」

第16回： 補講

第17回： 個人プロジェクトA-1

第18回： 個人プロジェクトA-2

第19回： 個人プロジェクトA-3

第20回： 個人プロジェクトA-4

第21回： 個人プロジェクトA-5

第22回： 個人プロジェクトA-6

第23回： 個人プロジェクトA-7

第24回： 個人プロジェクトA-8

第25回： 中間チェック

第26回： 個人プロジェクトB-1

第27回： 個人プロジェクトB-2

第28回： 個人プロジェクトB-3

第29回： 個人プロジェクトB-4

第30回： 個人プロジェクトB-5

第31回： 個人プロジェクトB-6

第32回： 課題作品発表と講評

各自のテーマと実力及び進捗状況をみながら指導内容を考える。
また、BIMソフトウェアの習得も行き、設計課題との積極的な連携を図る。

■教科書

教科書は無し。課題ごとにプリントを配付する。

■参考文献

課題内容に応じ紹介する。

■到達目標

インテリア業界での『仕事イメージ』を課題にし、それを通じて実践的を身に付ける。

■試験方法

原則として試験は行わない。

■成績評価基準

課題作品：70%、出席（受講態度）：30%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

ただ単に課題をこなすだけではなく、その先にある業界での仕事をしっかりとイメージし、自身の進路を模索する上での有効なきっかけとしてください。

科目名： 卒業制作		【実習】	
英文名： Graduation Design and Drawing			
担当者：	インテリアデザイン学科担当教員		
	本科目は、建築意匠や空間デザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーすると共に、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。		
開講年次： 2年次	開講期： 後期	科目区分： 専門 必修	単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>インテリアデザイン学科での学びの定着と、さらにそれらを発展させた取り組みです。しかし、ここでの卒業制作は「卒業すること」だけが目的ではなく、平行しながら進んでいる自身の「進路イメージ」（キャリアデザイン）とも繋がったものでなくてはなりません。よって、事前に作成したポートフォリオをきっかけに、その延長上での作品制作を行います。結果、社会で必要とされる仕事力を備えた人材へと成長するのです。これは専門学校における「卒業制作」の目的でもあるのです。</p> <p>第 1 回： 「卒業制作」…エスキース指導①</p> <p>第 2 回： 「卒業制作」…エスキース指導②</p> <p>第 3 回： 「卒業制作」…エスキース指導③</p> <p>第 4 回： 「卒業制作」…エスキース指導④</p> <p>第 5 回： 「卒業制作」…エスキース指導⑤</p> <p>第 6 回： 「卒業制作」…エスキース指導⑥</p> <p>第 7 回： 「卒業制作」…模型指導①</p> <p>第 8 回： 「卒業制作」…模型指導②</p> <p>第 9 回： 「卒業制作」…模型指導③</p> <p>第 10 回： 「卒業制作」…模型指導④</p> <p>第 11 回： 「卒業制作」…模型指導⑤</p> <p>第 12 回： 「卒業制作」…プレゼンテーション指導①</p> <p>第 13 回： 「卒業制作」…プレゼンテーション指導②</p> <p>第 14 回： 「卒業制作」…プレゼンテーション指導③</p> <p>第 15 回： 「卒業制作」…プレゼンテーション指導④</p> <p>第 16 回： 「卒業制作」…作品発表会・講評会</p> <p>■教科書 特に無し</p> <p>■参考文献</p> <p>■到達目標 自身の進路イメージ（キャリアデザイン）と繋がることで、業界へのスムーズな着地を目的とした能力を身に付けます。</p> <p>■試験方法</p> <p>■成績評価基準 制作作品及び受講姿勢にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ ここでの作業は自分自身に課せられた「仕事」ととらえてください。そのためには「自走する力」が必要です。最後まで粘り強くがんばってください。</p>			

科目名： CAD応用実習

【実習】

英文名： Computer Graphics

担当者： 大西崇之、鍛冶翔太、完山剛

本科目は、建築CAD、特にBIMへの造詣が深く、建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、実務での知識・技術をレクチャーするとともに、学生の制作等実習作業を実務視点から批評及び指導を行う。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 専門

必修

単位数： 4単位

■授業概要

BIMソフトの操作方法を基本から応用まで幅広く学びとともに、それらで作成したデータを元にプレゼンテーションボードを作成するなど、実践的な技術を学びます。このことにより、建築業界で行われる設計競技（コンペティション）などにも有効なものとなります。

- 第 1 回： 2D、3Dの基本操作復習と応用編…複数のソフトの連携方法
- 第 2 回： 応用編…複数のソフトの連携方法
- 第 3 回： 自由課題Ⅰ…ソフトの利用方法とプレゼンテーション①
- 第 4 回： ソフトの利用方法とプレゼンテーション②
- 第 5 回： ソフトの利用方法とプレゼンテーション③
- 第 6 回： 自由課題Ⅱ…ソフトの利用方法とプレゼンテーション①
- 第 7 回： ソフトの利用方法とプレゼンテーション②
- 第 8 回： ソフトの利用方法とプレゼンテーション③
- 第 9 回： 卒業制作への応用…解説とミーティング
- 第 10 回： 応用課題Ⅰ…ソフトの利用方法、空間のモデリング方法、表現方法①
- 第 11 回： ソフトの利用方法、空間のモデリング方法、表現方法②
- 第 12 回： ソフトの利用方法、空間のモデリング方法、表現方法③
- 第 13 回： ソフトの利用方法、空間のモデリング方法、表現方法③
- 第 14 回： 自由課題Ⅲ…ソフトの利用方法とプレゼンテーション①
- 第 15 回： ソフトの利用方法とプレゼンテーション②
- 第 16 回： 応用課題1・・・①
- 第 17 回： 応用課題1・・・②
- 第 18 回： 応用課題1・・・③
- 第 19 回： 応用課題1・・・④
- 第 20 回： 応用課題1・・・⑤
- 第 21 回： 応用課題1・・・⑥
- 第 22 回： 応用課題1・・・⑦
- 第 23 回： 応用課題2・・・①
- 第 24 回： 応用課題2・・・②
- 第 25 回： 応用課題2・・・③
- 第 26 回： 応用課題2・・・④
- 第 27 回： 応用課題2・・・⑤
- 第 28 回： 応用課題2・・・⑥
- 第 29 回： 応用課題2・・・⑦
- 第 30 回： 応用課題2・・・⑧
- 第 31 回： 応用課題2・・・⑨
- 第 32 回： まとめと作品講評

■教科書

プリント

■参考文献

■到達目標

業界業務における表現手法（プレゼンテーション）のより高度な技法を身に付ける。

■試験方法

■成績評価基準

課題作品に受講姿勢を考慮して評価します。

■受講生へのメッセージ

課題提出期限と出席チェックは厳しいです。デザイン演習Ⅲaを履修している事が非常に望ましい。進行中の課題プリント及び筆記用具とスケールを必ず持参すること。

科目名： インテリア特論		【講義】	
英文名： Theory of Interior Design			
担当者：	石川貴子		
	本科目は、インテリアデザインへの造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次： 2年次	開講期： 前期	科目区分： 専門 必修	単位数： 4単位
<p>■授業概要</p> <p>1年次におけるインテリア概論を基にそれらを更に発展させることで、応用的な知識の習得を目的としている。また、この授業はインテリアコーディネーター資格試験における学科試験対策も兼ねており、資格取得を目指すことも目的としている。</p> <p>第 1 回： インテリア販売 第 2 回： 消費生活関連法規 第 3 回： 家具 第 4 回： ウインドウトリートメント 第 5 回： 照明 第 6 回： 材料 第 7 回： 建具 第 8 回： 住宅設備 第 9 回： 各種エレメント・関連情報 第 10 回： インテリアの歴史 第 11 回： インテリア計画 第 12 回： 環境工学 第 13 回： 構造と施工 第 14 回： 住宅設備 第 15 回： 色彩と造形 第 16 回： 表現技法・建築関連法規</p> <p>■教科書 インテリアコーディネーターハンドブック【技術編】【販売編】 配布プリント</p> <p>■参考文献 授業内容に応じ紹介する。</p> <p>■到達目標 インテリア関連業務全般における基礎知識を基にその応用力を身に付ける。（インテリア関連資格試験受験にも必要な知識）</p> <p>■試験方法 定期試験（前期）</p> <p>■成績評価基準 定期試験：70%、演習課題：20%、出席（受講態度）：10%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ</p> <p>① 課題に取り組む姿勢を重視し、提出期限と出席チェックは厳しいです。 ② 課題テーマ（内容）については状況により変更する場合があります。</p>			

科目名： 建築環境工学

【講義】

英文名： Architectural Environment Engineering

担当者： 佐々木一恵

本科目は、建築環境工学への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。

第 1 回： 日照・日射環境1…太陽の運行・位置、日照の確保、日影曲線を用いた日照条件

第 2 回： 日照・日射環境2…日射、直達日射と天空日射、方位による日射特性、日射の調節

第 3 回： 光環境1…測光量、照明計算の基礎、明視条件・グレアとは、照度の基準について

第 4 回： 光環境2…全天空照度と昼光率、採光計画、照明計画と照明計算

第 5 回： 色彩環境1…色の属性、各表色系の紹介、色の対比

第 6 回： 色彩環境2…色彩の効果と色彩計画

第 7 回： 空気環境1…換気目的、汚染物質の許容濃度と必要換気量、シックハウス対策について

第 8 回： 空気環境2…自然換気の力学、機械換気方式の種類と換気計画、 8回までのまとめ・中間試験

第 9 回： 熱環境1…熱貫流の概念、熱伝導と熱伝達、中空層の効果、熱貫流率と日射

第 10 回： 熱環境2…建築全体の熱特性、住宅の省エネルギー基準

第 11 回： 湿気環境1…湿度の表し方、湿り空気と露点温度、空気線図の利用方法

第 12 回： 湿気環境2…結露現象とは、表面結露とその防止対策、内部結露とその防止対策

第 13 回： 温熱環境1…温熱環境の6要素と環境温度

第 14 回： 温熱環境2…快適さの条件、温熱環境指標について

第 15 回： 音環境…音の性質、周波数、騒音レベル、騒音評価と遮音効果、室内音響計画

第 16 回： 定期試験・9回から15回までのまとめ・全講義の振り返り

■教科書

初学者の建築講座 建築環境工学（市ヶ谷出版社）

■参考文献

特になし

■到達目標

光、熱、空気、音など、建築環境に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する

■受講生へのメッセージ

ヒートアイランドや地球温暖化対策としての建築のあり方にも関心がもたれており、建築においても環境分野はますます重要な領域となっています。建築計画を行う上でいかに環境工学が生かされているかを理解していきましょう。出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）

科目名： 建築設備		【講義】	
英文名： Building Equipment			
担当者：	村上弘典		
	本科目は、建築設備への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。		
開講年次：	2年次	開講期：	後期
		科目区分：	基幹
			単位数： 2単位
<p>■授業概要</p> <p>人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快適な居住環境を創造するための諸設備（空気調和設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等）について学習する。また、建築設計と設備計画との関連についても言及する。</p> <p>第 1 回： 建築設備の概要…自然環境と人工環境、建築計画と設備計画について</p> <p>第 2 回： 空気調和設備の概要…空気の性質、空気調和と室内環境、空気調和の目的について</p> <p>第 3 回： 空調負荷の考え方…空気線図の使い方、冷房負荷、暖房負荷について</p> <p>第 4 回： 空気調和設備の方式…熱源方式ならびに空調方式の種類と特徴について</p> <p>第 5 回： 空気調和設備の計画…空調設備の計画と考え方、設備設計の参考資料と設備設計図面について</p> <p>第 6 回： 熱搬送設備と機器部材…ダクト・室内ユニット、吹出口・吸込口等について</p> <p>第 7 回： 換気・排煙設備…換気・排煙設備の目的、必要換気量と換気回数、換気方法について</p> <p>第 8 回： 中間試験・8回までのまとめ、ならびに給排水・衛生設備の概要…給排水・衛生設備の役割と構成について</p> <p>第 9 回： 給水・給湯設備1…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について</p> <p>第 10 回： 給水・給湯設備2…給水方式、使用水量と給水圧力、給湯方式、配管材料について</p> <p>第 11 回： 排水・通気設備1…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について</p> <p>第 12 回： 排水・通気設備2…排水・通気設備の目的、排水配管、トラップ、雨水排水、配管材料について</p> <p>第 13 回： 排水処理設備・衛生器具…浄化槽、雨水・排水再利用、衛生器具の概要、給水器具・設備ユニットのついて</p> <p>第 14 回： 消火設備…消火設備の概要、屋内・屋外消火栓、スプリンクラ設備等について</p> <p>第 15 回： 電気設備1…電気設備の役割と構成、受変電・幹線設備、照明・コンセント設備等について</p> <p>第 16 回： 搬送設備・その他の設備…エレベータ、エスカレータ、ダムウェータ等、 定期試験・全講義の振り返り</p> <p>■教科書 初学者の建築講座 建築設備（初版第2刷）（市ヶ谷出版） プリント</p> <p>■参考文献 空気調和設備の実務の知識（オーム社） 給排水・衛生設備の実務の知識（オーム社）</p> <p>■到達目標 空気調和、給排水、電気など設備分野に関する考え方と基本的な知識を身につけることをめざす。</p> <p>■試験方法 定期試験を行う。</p> <p>■成績評価基準 定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。</p> <p>■受講生へのメッセージ 天井裏や壁の中あるいは床下に隠れてしまう建築設備は、現代生活においては不可欠な存在となっている。建築設備の役割を理解し、最新設備にも関心を持ち続ける姿勢が大切です。 出席率80%未満の場合は、単位を取得することができない（欠格条件）</p>			

科目名： 建築材料学 I

【講義】

英文名： Building Materials I

担当者： 松本司

本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

この科目は、まず前半に日本の代表的・伝統的建築材料である木材について学び、後半に現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて学ぶ。この二つを学ぶことにより建築材料による建築の歴史及び可能性を学ぶ。

第 1 回： JIS・JAS等の国家規格と建築材料…建築材料のガイダンスとして種々にの材料から規格について学ぶ

第 2 回： 建築材料概説（建築材料の歴史）…人類が最初に手にした材料は自然材料、道具の発明、加工の技術等

第 3 回： 木材の概説…林業白書から現代の木材事情等を学ぶ

第 4 回： 木材の種類及び分類、性質…主な樹種から木材の特徴を学ぶ

第 5 回： 木材（製材品）…柱や梁材の形状や寸法等を学ぶ

第 6 回： 木材とその加工品…木材の加工品について学ぶ。同時に木材接着剤の有害性の有無についても理解する

第 7 回： 塗料、仕上げ材料…木部の保護、仕上げ材としての塗料について学ぶ

第 8 回： 石灰・石膏製品…石灰・石膏製品には左官材料や工場製品等、建材は多くあり、そのいくつかを学ぶ

第 9 回： 中間試験・木材を中心に8回までのまとめ

第 10 回： セメント（歴史・種類）…各種セメントの特徴について

第 11 回： セメント（性質等）…セメントが水と化学反応して新たな硬化体を造る事について

第 12 回： コンクリート（材料等）…コンクリートが人造石であること、基本的性質

第 13 回： コンクリート（調合・諸性質等）…良いコンクリートを作るための性質の理解

第 14 回： コンクリート（強度・水セメント比）…コンクリートの強度とセメント比の関係等

第 15 回： コンクリート（調合の表し方）…コンクリートをつくる時の水・骨材等の割合を決める調合設計について学ぶ

第 16 回： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り

■教科書

建築材料第4版（市ヶ谷出版社）

■参考文献

やさしい建築材料（学芸出版社）、初めての建築材料（学芸出版社）

■到達目標

各種の建築材料の種類や性質等の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

この科目は2年次科目です。建築材料学 I もしくは II を必ず単位取得して下さい。

科目名： 建築材料学Ⅱ

【講義】

英文名： Building Materials Ⅱ

担当者： 松本司

本科目は、建築材料への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築材料Ⅰの続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等その特徴を知る。次に仕上げ材を分類別にガラス、セラミックス、石材と学び、機能材料などを学んだ後、リフォームについて学び材料の使い方について考える。

第 1 回： 金属製品…鋼材や鉄筋コンクリート用棒鋼の形やJIS記号を学ぶ

第 2 回： 金属材料（鉄鋼）…製鉄のあらましを学ぶ

第 3 回： 金属材料（鉄鋼）…鋼（スチール）をつくる方法を学ぶ

第 4 回： 鋼材の性質等…鋼の強さを他の材料との比較で知る

第 5 回： 鋼材の性質等…炭素含有量による鋼の性質の変化等

第 6 回： 鋼以外の鉄、鋼の合金①…ステンレス・スチール等、その他の鉄の仲間について学ぶ

第 7 回： ガラス…ガラスの歴史や板ガラスの製法・諸性質、各種ガラスについて学ぶ

第 8 回： セラミックス…粘土を主成分とした建築用セラミックス(タイル、瓦等)について学ぶ

第 9 回： 中間試験・金属(鉄鋼)を中心に8回までのまとめ

第 10 回： 石材(その1)…張り材としての石材の一般的な特性について学ぶ

第 11 回： 石材(その2)…花崗岩・大理石等主な石材について学ぶ

第 12 回： プラスチックス、接着剤…プラスチックの長所・短所、接着剤の用途、問題点(シックハウス症候群)について学ぶ

第 13 回： 機能材料…機能材料としての防耐火・断熱・音響材料について学ぶ

第 14 回： インテリア材料…内装材(カーペット、畳、壁紙等)について学ぶ

第 15 回： リフォーム…リフォームの必要性、要点について学ぶ

第 16 回： 定期試験・10回から15回のまとめ・全講義の振り返り

■教科書

建築材料第4版(市ヶ谷出版社)

■参考文献

やさしい建築材料(学芸出版社)、初めての建築材料(学芸出版社)

■到達目標

各種の建築材料の種類や性質等の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

期末試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

この科目は2年次科目です。建築材料学ⅠもしくはⅡを必ず単位取得して下さい。

科目名： 建築施工法Ⅱ

【講義】

英文名： Construction Method II

担当者： 奥大輔

本科目は、建築施工法への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 前期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

1年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。

- 第 1 回： 建築施工の概要…建築物の企画、施工業者の選定等
- 第 2 回： 施工計画…工程管理、地盤調査(各種試験)等
- 第 3 回： 仮設工事…仮設物の種類、共通・直接仮設工事、工事用電気・給排水、工事用機械
- 第 4 回： 土工事・山留め工事…土工事の種類、山留め工法、山留めの設計、各種地盤現象
- 第 5 回： 地業工事…地業工事の種類、杭について、地盤改良工事
- 第 6 回： 鉄筋工事①…鉄筋工事について
- 第 7 回： 鉄筋工事②…配筋の方法、定着と継手等
- 第 8 回： 鉄筋工事③…鉄筋の加工と組立、配筋検査等
- 第 9 回： 中間試験（施工の概要・施工計画・仮設・土・地業・鉄筋工事のふりかえり）
- 第 10 回： 型枠工事…型枠の設計、型枠の加工と組立
- 第 11 回： コンクリート工事①…コンクリートの品質と種類
- 第 12 回： コンクリート工事②…コンクリートの運搬と打込み
- 第 13 回： 鉄骨工事①…鉄骨工事の計画、工作等
- 第 14 回： 鉄骨工事②…鋼材の接合、工事現場施工、鉄骨関連工事
- 第 15 回： 環境保護…環境負荷（環境負荷の低減方法）、総まとめ
- 第 16 回： 定期試験（型枠・コンクリート・鉄骨工事 環境保護のふりかえり）

■教科書

建築施工テキスト（井上書院）

■参考文献

特になし。

■到達目標

1年次で学んだ施工法Ⅰを基にして、より深く建築施工の知識を身に付ける。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

学ぶ場は学校だけでなく、日常生活の中にも建物は存在する。また建設現場もたくさんあるので、学生自身の身のまわりにも興味を持って観察してほしい。

科目名： 建築積算

【講義】

英文名： Estimation

担当者： 猪田紗加

本科目は、建築積算への造詣が深く建築設計実務を長年経験し、同分野に対する深い見識を持つ教員が主に担当する。教員は、理論講義と共に実務での経験的知識とそれとの関連を示し、より実践的な知識となるよう指導する。

開講年次： 2年次

開講期： 後期

科目区分： 基幹

単位数： 2単位

■授業概要

建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。

第 1 回： 積算の概要…積算の意義、種類、工事費の構成、積算方式等について

第 2 回： 土工・地業の積算…土工の数量、地業の数量の積算について

第 3 回： 鉄筋コンクリート造の積算①…基礎、柱、梁のコンクリート数量の積算について

第 4 回： 鉄筋コンクリート造の積算②…床版、壁、階段、その他のコンクリート数量の積算について

第 5 回： 鉄筋コンクリート造の積算③…上記①の鉄筋の数量の積算について①

第 6 回： 鉄筋コンクリート造の積算④…上記①の鉄筋の数量の積算について②

第 7 回： 鉄筋コンクリート造の積算⑤…上記①の型枠の数量の積算について

第 8 回： 中間試験（積算概要・土工・地業・鉄筋・型枠・コンクリートのふりかえり）

第 9 回： 鉄骨造の積算①…積算の区分と順序について

第 10 回： 鉄骨造の積算②…鉄骨、鋼材の積算について

第 11 回： 鉄骨造の積算③…ボルト、溶接の積算について

第 12 回： 木造の積算①…木工事の積算について①

第 13 回： 木造の積算②…木工事の積算について②

第 14 回： 仕上げ工事①…各仕上げ工事（屋根、左官、塗装、金属工事）の数量について

第 15 回： 仕上げ工事②…各仕上げ工事（建具、ガラス、タイル、その他内装工事）の数量について

第 16 回： 定期試験（鉄骨造・木造・各仕上げのふりかえり）

■教科書

初めての建築積算（学芸出版社）

■参考文献

特になし

■到達目標

建築積算に必要な数量、金額を算出する能力を身につけます。

■試験方法

定期試験を行う。

■成績評価基準

受講姿勢並びに定期試験60%、中間試験20%、小演習20%にて評価する。

■受講生へのメッセージ

積算基準に沿って、毎回小演習を実施しつつ基本的な積算技術を学ぶので、欠席しないように。

科目名： キャリアデザイン II

【講義】

英文名： Career Design II

担当者：

クラス担任、伊藤賢一、善才雅夫

業界技術者、高等学校での教員職、採用コンサルタントの各職務経験を有する教員陣が担当する。

開講年次： 2年次

開講期： 通年

科目区分： 特別 必修

単位数： 2単位

■授業概要

1年次に続き就職活動対策、社会人としての基礎学力習得を目的としたトレーニングを重ねることに加え、社会人マナーや常識など働く上での基本となる考え方、知識、所作を習得。具体的には、就職対策では面接（個人、集団）、グループディスカッション、プレゼンテーション、論作文、SPIへの対応方法を学び、基礎学力では1年次の国語、数学に加え、英語、理科にまで分野を広げる。

- 第 1 回： 就職対策①／履歴書の精度向上。作成した履歴書の添削結果をもとに改善すべき点を抽出しこれを共有する。
- 第 2 回： 基礎学力①／英語：英単語（名詞）、数学：1次方程式、不等式、国語：同音異句1
- 第 3 回： 就職対策②／SPI。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
- 第 4 回： 基礎学力②／英語：英単語（複数形）、数学：数列（虫食い算）、国語：同音異句2
- 第 5 回： 就職対策③／エントリーシート。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
- 第 6 回： 基礎学力③／国語・説明的文章：指示語、数学：平方根
- 第 7 回： 就職対策④／面接1。個人面接における対策。
- 第 8 回： 基礎学力④／理科：理科問題の公式、社会：日本地理、資源・観光・産業
- 第 9 回： 就職対策⑤／面接2。集団面接における対策。
- 第 10 回： 基礎学力⑤／英語：派生語、数学：数列、国語：同音異句3
- 第 11 回： 就職対策⑥／グループディスカッション。その内容、企業がこれを利用する意図、対策を学ぶ。
- 第 12 回： 基礎学力⑥／英語：動詞形の変化、数学：鶴亀算、国語：対義語1
- 第 13 回： 就職対策⑦／プレゼンテーション。就職活動におけるあり方を学ぶ。
- 第 14 回： 基礎学力⑦／理科：電気とエネルギー、社会：世界地理
- 第 15 回： 就職対策⑧／論作文。基礎学力パートで培った技量を駆使した実践。
- 第 16 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー①：話し言葉（対同僚、先輩、上司、取引先）
- 第 17 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー②：文書作成（体内部、取引先へのビジネス文書）
- 第 18 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー③：電話対応（外線、内線、社内、取引先）
- 第 19 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー④：メール（フォーマット、To・Cc・Bcc、文書作成のポイント）
- 第 20 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー⑤：外部訪問、同行時の所作。
- 第 21 回： ビジネス基礎／ビジネスマナー⑥：メモのとり方（電話、会議、商談）
- 第 22 回： ビジネス基礎／会社組織：部署の役割、役職。
- 第 23 回： ビジネス基礎／産業界の構成：各業界大手企業・シェア、旧財閥。
- 第 24 回： ビジネス基礎／会議、打合せ①：その意図、意味、目的、所作。
- 第 25 回： ビジネス基礎／会議、打合せ②：実践 i。グループディスカッション形式による実践。
- 第 26 回： ビジネス基礎／会議、打合せ③：実践 ii。グループディスカッション形式による実践。
- 第 27 回： ビジネス基礎／経理：売上、原価、粗利、利益とその内訳。算出方法。
- 第 28 回： ビジネス基礎／税と社会保険：各言葉の意味。
- 第 29 回： ビジネス基礎／企業データ：各言葉の意味。
- 第 30 回： ビジネス基礎／プレゼンテーション①：課された課題の要約、文書化、発表、各手法。
- 第 31 回： ビジネス基礎／プレゼンテーション②：実践 i。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。
- 第 32 回： ビジネス基礎／プレゼンテーション③：実践 ii。過去の自分、今の自分、未来の自分を個々人が発表。

■教科書

プリント利用

■参考文献

授業の中で適時紹介します。

■到達目標

社会人意識醸成し、ビジネス基礎力を身に付ける。

■試験方法

授業への参加と成果物、チェックテストの内容で合否を判断します。

■成績評価基準

提出物20%、出席点80%で評価します。

■受講生へのメッセージ

本校の学びは社会、仕事に直結しています。目指す業界、職種に就くことを強く意識し、未来を見据えて取り組んでください。合わせて、単なる就職対策としてではなく、社会人として最低限の基礎学力を身につけてください。